

シ ラ バ ス



学校法人伊藤学園
専門学校甲府医療秘書学院

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	心理学	委嘱	通年	清水 隆善	60	1

実務経験のある教員による授業科目	病院で臨床心理士として勤務していた経験を活かし、ソーシャルワーカーに必要な知識、クライアントに関わる際の心構えなどを指導します。
------------------	--

目的およびねらい	<p>社会福祉に従事するワーカーが、その援助業務上あるいは心理職との連携上持つておくべきと思われる用語・事項の基礎知識を修得する。</p> <p>基本的な知識の理解だけでなく、社会福祉実践における生活支援にどう活かすかの知見を獲得することが到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成とコミュニケーションに関する基本的な知識を理解する。 ・社会福祉専門領域における生活支援にどう活かすかの知見を獲得することができたか。
----------	---

学 習 計 画	<p>講義内容は、記憶、認知、学習等の心理学の基礎知識に加え、障害者の心理、高齢者の心理、社会福祉実践に応用する心理学等、可能な限り実践的内容を盛り込む。社会福祉現場で活かせる支援方法の基礎を修得し、対人関係に人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 こころとは何か 2 心理的理解と社会福祉における支援 3 性格 4 人の成長・発達 5 知能 6 感覚・知覚・認知 7 情動・欲求 8 臨床心理学 9 学習心理学 10 社会心理学 11 環境心理学
---------	--

教科書・参考書	社会福祉士養成講座「心理学理論と心理的支援」／中央法規出版
---------	-------------------------------

評 価 方 法	筆記試験問題、採点結果および出欠状況を中部学院大学に送付し、大学が評価を行う。
---------	---

備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目
-----	--------------------

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会理論と社会システム	S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	医学知識	R T			30	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	課題研究 I	S R			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉概論	R S			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	高齢者福祉論	S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	介護概論	委嘱	前期	伊藤 健次	30	1

実務経験のある教員による授業科目	特別養護老人ホームに勤務していた経験を活かし、高齢者介護、介護技術、介護保険について、講義します。
------------------	---

目的およびねらい	介護の概念について、「対象」「目的」「方法」「歴史」を学ぶ。 「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習をする。 また、介護における安全や多職種協働と連携の必要性について理解を深める。 介護に必要な知識と、その知識に裏付けられた技術体系を学習する。 さらに介護実践事例を通して、人間としての尊厳や生き方について思考を深化させていく。
----------	--

学 習 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念、枠組、歴史性を理解し、介護の本質を具体的な事例から導き出す。 ・介護の目的機能および展開過程について理解する。 ・介護を巡る社会問題、生活問題を明らかにしながら、介護が行われる“場”と“暮らし”について思考する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 介護を巡る諸課題 2 介護の概念や対象 3 介護の専門性 4 介護の歴史 5 在宅介護の理解 6 認知症のケアと介護サービス 7 リスクマネジメント 8 終末期ケア 9 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み 10 これからの介護に求められること
---------	---

教科書・参考書	社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」／中央法規出版
---------	------------------------------------

評価方法	筆記試験問題、採点結果および出欠状況を中部学院大学に送付し、大学が評価を行う。
------	---

備 考	
-----	--

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	障害福祉制度論	S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	児童福祉制度論	S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会保障論	R S			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	公的扶助論	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	地域福祉論	R S			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術概論	R S			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助の基盤 (基礎)	S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術論A	RRT			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術論B	R S			60	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	医療福祉論	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会調査	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	福祉行財政と福祉計画	R T			30	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	福祉運営管理論	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	権利擁護と成年後見制度	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	社会福祉士・精神保健福祉士 共通科目

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神科ソーシャルワーク論	R T			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助各論	RRT			60	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神医学	RRT			60	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健学	RRT			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神科リハビリテーション学	RRT			60	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉論	R S			90	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術演習 I	R S			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術演習Ⅱ	R S			30	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉援助技術演習 (事後)	S			20	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉実習	J		巡回指導 矢野 泰宏	184	2

実務経験のある教員による授業科目	この科目は、学校外でのインターンシップを授業の中心に位置づけ、座学の内容と就業体験を統合し、生徒にさらなる学習と就業への方向性をつかんでもらう。また実習を通じて、生徒に職業適性や将来設計について主体的に考えさせる。
------------------	---

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
----------	------------------------------------

学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
---------	--

教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
---------	------------------------------------

評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
---------	---------------

備 考	
-----	--

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	社会福祉実習指導	RSJ			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助演習 (基礎)	R T			20	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助演習 I	S			20	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助演習Ⅱ	S			20	2

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉実習指導	RSJ			30	1

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
中部学院大学	精神保健福祉援助実習	J			215	2

実務経験のある教員による授業科目	この科目は、学校外でのインターンシップを授業の中心に位置づけ、座学の内容と就業体験を統合し、生徒にさらなる学習と就業への方向性をつかんでもらう。また実習を通じて、生徒に職業適性や将来設計について主体的に考えさせる。
------------------	---

目的およびねらい	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
学 習 計 画	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。 中部学院大学の単位を取得することで、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	中部学院大学のホームページ掲載の学習ガイドブックを参照してください。
評 価 方 法	中部学院大学の評価とする。
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
独自	秘書実務	演習	通年	遠藤智加子	45	1

目的およびねらい	社会福祉士、精神保健福祉士としてサービスの提供にあたり、マナーの重要性・必要性を理解すると共に、マナーに対する意識、自身の心構え、技術を身につける。
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ケアワーカーとしての心構え 2 マナーの必要性・重要性 3 利用者の主訴とニーズの違い 4 プロとしての身だしなみと気遣 5 高齢者とのコミュニケーションの取り方 6 会話・言葉遣い 7 利用者との電話対応のマナー 8 電話対応の実習 9 クレーム対応 10 名刺交換のマナー 11 ご家族、お客様の対応 12 茶菓のマナー
教科書・参考書	なし
評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
独自	就労支援 更生保護制度	講義	前期	矢野 泰宏	45	2

目的およびねらい	<p>1 就労支援の意義（特にソーシャルワーカーが行う就労支援の観点から）、現代社会における雇用・就労の動向と労働施策の概要（基本的な労働法規を含む）、就労支援の制度と実施体制（障害のある人への就労支援、低所得者に対する就労支援、母子家庭への就労支援、就労支援に係る組織、団体を含む）、就労支援に関する専門職の役割と実際、就労支援分野における連携の実際と課題、これからの就労支援の展望について学習する。</p> <p>2 刑事政策（犯罪対策）としての更生保護制度の位置付けを明確にした上で、同制度の概要を説明する。更に、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び人的構図を明らかにし、同制度の特色である官民協働のシステムに注目する。 更生保護制度は、その制度の範疇ですべての問題が完結するものではないので、同制度と関連の深い刑事司法及び社会福祉等の分野の諸機関・団体との連携・協力の現状、又は望ましい在り方について取り上げる。また、更生保護機関が担ういわゆる「医療観察制度」の概要を説明し、同制度に携わる社会復帰調整官の専門性に触れる。さらに、現在改革期に直面している更生保護制度の課題を取り上げ、今後の更生保護制度の在り方を展望する。</p>
学 習 計 画	<p>1 社会福祉士が担う就労支援についてその意義や制度の概要を理解する。社会福祉士が担うことの意義を踏まえた上で、就労支援制度と就労支援に係る組織、団体及び専門職等について理解する。また、労働分野のみならず、福祉、教育、保健医療の各分野との連携が重要であり、その実際と課題についても学ぶ。これらの学習を通じ、現代における就労支援の本質を探るとともに、働くことの改善につながる視点を養うことを目標とする。</p> <p>1-1 ソーシャルワークと就労支援 1-2 “働く”とは？“障害”とは？ 1-3 障害者雇用制度の概要 1-4 障害者雇用の実際：ゲストスピーカー 1-5 企業で働く同僚による支援実態と困難感について 1-6 労働と生活を統合的に支える支援のあり方 1-7 福祉的就労の実際 1-8 低所得者・生活困窮者への就労支援のあり方</p> <p>2 社会福祉士等専門職としての相談援助活動において必要とされる更生保護制度（医療観察制度を含む）の全容を理解する。同制度の特色である官民協働のシステム、特に保護観察官と保護司の協働で行われる保護観察ケースワークの特徴や更生保護官署と社会福祉機関等との連携の重要性について理解する。</p> <p>2-1 更生保護制度の概要→更生保護の理念と恩赦等を含む更生保護制度の総論 2-2 更生保護制度の担い手→保護観察官、保護司等この制度を支える人々 2-3 仮釈放等と生活環境の調整→刑事施設からの仮釈放手続等、その準備としての帰住予定地の調整 2-4 保護観察処遇→保護観察官と保護司の協働態勢、権力的ケースワーク、指導監督と補導援護のダブルロール 2-5 医療観察制度の概要→心神喪失者等に対する医療、社会復帰促進システム、社会復帰調整官の役割など 2-6 恩赦、被害者支援、犯罪予防活動 2-7 更生保護における援助、福祉的措置 2-8 更生保護制度の改革と新たな施策→更生保護法成立の経緯と刑務所出所者に対する就労、福祉の支援など</p>
教科書・参考書	<p>社会福祉士養成講座「就労支援サービス」／中央法規出版 社会福祉士養成講座「更生保護制度」／中央法規出版</p>
評 価 方 法	<p>筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
独自	コンピュータ実習	演習		矢野 泰宏	45	1

目的およびねらい	<p>将来、社会福祉の現場や行政で活躍する、或いは社会福祉の教育や研究に携わる人材には、2つの意味での情報処理能力を身に付けることが望まれる。1つは、作業のシステム化とも言えるもので、目的と状況に応じて効果的な行動を採れるような論理の流れを築く能力、もう1つは、情報機器を実際に取り扱う能力である。この科目は、後者の情報処理能力を磨くのがねらいとなる。</p> <p>具体的には、レポート作成のための情報処理能力、つまり、資料を集め、文章を書き、データを処理して図表化し、組み合わせてレポートの形にする、そして発表する、といった、一連の情報収集・処理・発信能力を身につける。</p>
学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 MS Wordの使い方 2 基本的なWindows OSの操作、日本語入力、文字飾り、絵の貼付け、脚注、検索、書式設定、表、箇条書き、アウトライン、スペルチェック、印刷、保存 3 インターネット上の資料を調べる・翻訳 4 MS Excelの使い方 5 MS WordとMS Excelとの連携 6 レポートを作成する
教科書・参考書	なし
評 価 方 法	<p>提出課題、出欠状況を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備 考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
独自	福祉事務	講義	通年	遠藤智加子 矢野泰宏	60	1

目的およびねらい	<p>社会保障制度全般の知識を有し、介護保険制度と介護報酬請求事務の能力をもつ人材は、医療機関及び社会福祉施設から望まれている。福祉関連機関における、事務担当者として、一般的知識と技能を有し、業務を遂行することができる。福祉事務管理技能検定試験2級合格を目指す。</p>
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会福祉 2 社会福祉の分野と法制度 3 社会保障 4 利用者保護制度の概要 5 社会福祉専門職 6 相談援助 7 からだの理解 8 からだと生活の関係 9 高齢者の代表的な病気 10 障害者（児）に多い疾患 11 生活習慣病 12 介護保険における特定疾病 13 こころの理解 14 高齢者の心理特性 15 障害者の心理特性 16 公衆衛生・保健医療対策の現状 17 高齢者のこころとからだを守る 18 介護の概念 19 介護の歩み 20 介護福祉の機能 21 社会生活を支える介護の技法 22 日常生活を支える介護の技法 23 在宅の介護と施設の介護 24 介護保険制度 25 介護サービス利用 26 介護保険給付について 27 介護保険請求について
教科書・参考書	<p>福祉事務管理技能検定テキスト 1 改訂 社会保障・社会福祉論／建帛社 福祉事務管理技能検定テキスト 2 老人・障害者の医学と心理／建帛社 福祉事務管理技能検定テキスト 3 介護の基礎／建帛社 福祉事務管理技能検定テキスト 4 介護保険制度 第2版／建帛社</p>
評価方法	<p>筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備考	

令和4年度 Syllabus

専門学校甲府医療秘書学院

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
独自	文書言語表現	演習	通年	望月 薫	45	1

目的およびねらい	<p>対人援助職として、対象者との支援関係の構築や実際に支援を行うためのコミュニケーションの意義について理解し、必要な技法について学び、ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの仕組みを理解できる。 2. 的確に言語的メッセージを送信・受信できる。 3. 非言語的メッセージを理解し活用できる。 4. コミュニケーションが成立する場をつくることができる。 <p>また、話しことばとコミュニケーション検定2級合格を目指す。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの基本 3 利用者や家族の状況理解と関係構築 4 話を聴く技法 5 感情表現を察する技法 6 質問の技法 7 意志決定を支援する技法 8 対象者の意欲を引き出す技法 9 相談や助言の技法 10 意向を調整する技法
教科書・参考書	話しことばとコミュニケーション／日本話しことば協会
評価方法	筆記試験・提出課題・話し方演習・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備 考	